

常樂寺
臨済宗建長寺派で、粟船(そくせん)山と号す。粟船(あわふねは)寺がある大船という地名の由来といわれている。

嘉慶三年(一二三七)に三代執權北条泰時が、妻の母を供養するため退耕行勇(長寛元年・一一六三)仁治年(一二四一)を開山として創建した粟船御堂(あわふねどう)がその前身で、仁治三年八月十五日泰時が死に、遺骸(ほこ)の山とて常樂寺と称した。

常樂寺略記には、木曾義高(義仲の子、承安三年・一一七三)元暦元年・一一八四の夫人大姫(頼朝の娘)の死後、北条政子が義高・大姫両人の供養のため心中を察せるに依て御哀(阿弥陀三尊)を安置して仏堂(粟船御堂)を建立したの

(粟船御堂)を建立したの



常樂寺
臨済宗建長寺派で、粟船(そくせん)山と号す。粟船(あわふねは)寺がある大船という地名の由来といわれている。

【鎌倉の再発見】無品の小寺④



北条泰時の墓(常樂寺)

(つづく)
（つづく）
前田 寛
(財)全国修学旅行研究会
理事長代行・事務理事

銘の中に「相州路宝龜山長から招いた蘭溪道隆(建長寺開山)が、建長寺造営中の七年間この寺に住し、時の禪の教えを受けにしばしば往来した」という。



足利基氏が、父尊氏の菩提(南朝の元中六年)で、その元年は二三八九年に当たる。いざれにしても足利氏の元年は十三世紀にまでさかのぼる」とできる古寺である。

通常は非公開で山内に入れないが、予約制で趣のある精進料理を供しておらず、外陣には尊氏像と印元の行き届いた芝が、新緑の

時季には殊にすががしく、その間に白砂と石を配して石庭を形作っている。わらぶき玉形造の仏殿に

残すのみである。北条泰時の墓(くり)は本尊御迎如來像が祀られ、外陣には尊氏像と印元の像が安置されている。

前庭奥の小丘の頂上には二基の若むした五輪塔があり、大ぶりの変形の方は、尊氏の墓あるいは基氏が尊氏の髪を埋めた供養塔であると伝える。

お問い合わせは
●鈴鹿サーキット・三重営業所 0593(78)1111
●東京営業所 03(3271)5888
●名古屋営業所 052(571)7176

お問い合わせは
●鈴鹿サーキット・三重営業所